

次期学習指導要領 科目構成＆単位数【案】公表！

新科目と単位数を一覧で！ 減単にも注目！

旺文社 教育情報センター 2026 年 7 月 10 日

指導要領の改訂は現在、文科省で各教科の内容が議論されていて、いよいよそれも大詰めだ。そうした中、各作業部会の中核的な役割を果たしている総則・評価特別部会で一昨日、高校の科目＆単位数一覧(案)が初めて公表された。

※本記事の内容はすべて予定。今後変更がありうる。

次期学習指導要領 高校 科目・標準単位数(案)

※2026年7月8日 第10回 教育課程部会 総則・評価特別部会 配付資料を基に作成。
※下線は新設科目。 ※()は必修・選択必修科目のうち、減単可能な単位数。

〔現 行〕				〔改 訂 案〕			
教科	科目	標準 単位数	◎＝必修 ○＝選択必修	教科	科目	標準 単位数	◎＝必修 ○＝選択必修
国語	現代の国語	2	◎	国語	現代の国語Ⅰ	4(－1)	◎
	言語文化	2	◎		言語文化Ⅰ	4(－1)	◎
	論理国語	4			現代の国語Ⅱ	8	
	文学国語	4			論説と批評	4	
	国語表現	4			対話と表現	4	
	古典探究	4			言語文化Ⅱ	8	
地理 歴史	地理総合	2	◎		文学と創作	4	
	地理探究	3			古典と文化	4	
	歴史総合	2	◎	地理 歴史	地理総合	4(－1)	◎
	日本史探究	3			地理探究	6	
	世界史探究	3			歴史総合	4(－1)	◎
公民	公共	2	◎		日本史探究	6	
	倫理	2			世界史探究	6	
	政治・経済	2		公民	公共	4	◎
数学	数学Ⅰ	3(－1)	◎		倫理	4	
	数学Ⅱ	4			政治・経済	4	
	数学Ⅲ	3		数学	数学Ⅰ ※2	8(－3)	◎
	数学A	2			数学Ⅱ	6	
	数学B	2			数学Ⅲ	6	
	数学C	2			新選択科目(名称未定)	2～12	
理科	科学と人間生活	2	○	理科	科学と人間生活	4or8(－1)	○
	物理基礎	2	○		物理基礎	4(－1)	○
	物理	4			物理	8	
	化学基礎	2	○		化学基礎	4(－1)	○
	化学	4			化学	8	
	生物基礎	2	○		生物基礎	4(－1)	○
	生物	4			生物	8	
	地学基礎	2	○		地学基礎	4(－1)	○
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3(－1)	◎		地学	8	※3
	英語コミュニケーションⅡ	4		外国語	英語コミュニケーション(総合)Ⅰ	6(－2)	◎
	英語コミュニケーションⅢ	4			英語コミュニケーション(総合)Ⅱ	8	
	論理・表現Ⅰ	2			英語コミュニケーション(総合)Ⅲ	8	
	論理・表現Ⅱ	2			英語コミュニケーション(発信)Ⅰ	4	
	論理・表現Ⅲ	2			英語コミュニケーション(発信)Ⅱ	4	
情報	情報Ⅰ	2	◎		英語コミュニケーション(発信)Ⅲ	4	
	情報Ⅱ	2		情報	情報Ⅰ	4	◎
					情報Ⅱ ※4	4	

※単位数の数え方を
変更
↓
単純に2倍に。

〔現 行〕

教科	科目	標準 単位数	◎＝必修 ○＝選択必修
保健 体育	体育	7～8	◎
	保健	2	◎
芸術	音楽Ⅰ	2	○
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	○
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	○
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2	
	書道Ⅲ	2	
家庭	家庭基礎	2	○
	家庭総合	4	○
理数	理数探究基礎	1	
	理数探究	2～5	
総合的な探究の時間		3～6(－1)	◎

※単位数の数え方を変更
↓
単純に2倍に。

→

〔改 訂 案〕

教科	科目	標準 単位数	◎＝必修 ○＝選択必修
保健 体育	体育	14～16(－2)	◎
	保健	4(－1)	◎
芸術	音楽Ⅰ	4	○
	音楽Ⅱ	4	
	音楽Ⅲ	4	
	美術Ⅰ	4	
	美術Ⅱ	4	○
	美術Ⅲ	4	
	工芸Ⅰ	4	
	工芸Ⅱ	4	
	工芸Ⅲ	4	○
	書道Ⅰ	4	
	書道Ⅱ	4	
	書道Ⅲ	4	
家庭	家庭基礎	4	○
	家庭総合	8(－3)	○
理数	理数探究基礎	2	
	理数探究	4～10	
総合的な学習の時間		6～12(－2)	◎

卒業に必要な単位数＝74単位

必修単位数計＝38単位(減単時 最低35単位)

【現行】 ※1.理科の選択必修は、『科学と人間生活』＋基礎1科目または『基礎3科目』。

【改訂案】 ※2.『社会を読み解く数学』に相当する内容を「新選択科目(名称未定)」で選択履修する場合は減単可とすることを別途整理する予定。

※3.理科の選択必修は、現行の2パターンに『科学と人間生活(8新単位)』のみを追加。この場合、同科目の履修方法が従来(4新単位)とは異なる。

※4.各高校で実社会の課題に探究的・長期的に取り組めるように、追加で一定の単位数を配当する例を別途解説等で示す予定。

同左＝148単位

同左＝78単位(減単時 最低64単位)

●単位数の見方・減単

次期指導要領では単位数の数え方を現行の2倍にする予定だ(本記事では便宜上「○現単位」「○新単位」と示す)。たとえば情報Ⅰは「2現単位⇒4新単位」。卒業に必要な単位数も「74現単位⇒148新単位」となる。

また、今回の改訂は「余白の創出」や「高校の教育課程の柔軟化」が大きなテーマ。その施策の1つが減単できる科目の拡大で、減単できる単位数を表中に(カッコ)で示した。

現行では2単位の必修科目は減単が認められていない。1単位のウエイトが大きいからだ。しかし次期指導要領では単位数を倍にすることで減単できる科目が広がる。たとえば地理総合は「2現単位⇒4新単位」となるので減単が可能となる(とはいえ3学期制の高校だと1単位の減単はカリキュラム上難しいが)。なお次期指導要領でも「教科内で必修科目の単位数合計が3新単位以下となってしまう減単」は認めない予定だ(公共、情報Ⅰなど)。

●大きな変更のある教科

主要教科の中で特に大きな変更があるものを見ていこう(以下、すべて予定)。

【情報】

「情報」は科目構成も単位数も実質変わらないが、内容は大きく変わる見込み。指導要領全体で「情報活用能力の抜本的向上」を掲げ、小中高を通じて情報教育を大幅に拡充する。

小学校では「総合的な探究の時間」(現「総合的な学習の時間」)の中に「情報の領域」を設定、中学校では現行の「技術・家庭科」を分離して、前者を「情報・技術科」とする。高校から中学校に移行する学習内容もあり、高校ではより高度な情報活用能力の育成を図る。

【数学】

数学 A・B・C を統合した新選択科目を設置する（「数列」「行列」「統計的な推測」「場合の数と確率」などの学習項目を選択履修）。

数学 I には新たな学習項目として「数学ガイダンス」と「社会を読み解く数学」を設定。「数学ガイダンス」は数学の全体像や社会との関係を学ぶ。「社会を読み解く数学」は上述の新選択科目の学習項目について、基礎的な部分を数学 I でも学んでおこうというものだ。

数学 I はこれらの新項目が入るため、現行よりも単位数が増える。しかし「社会で読み解く数学」の内容を新選択科目で履修する場合は、数学 I で相当分を減単可能。P.1 表の数学 I 「(-3)」にはその分の減単が含まれている。

【国語】

現行の「現代の国語」と「言語文化」をそれぞれ「同 I」として、新たに「同 II」を設置。そのほかの科目もすべて再編する。現行の科目構成の課題は、選択科目の偏りによって論説文・文学・古典のバランスを欠いてしまう点で（理系の生徒で文学の学びが少ないなど）、幅広い II 科目を新設してその是正を図る。

また、「I 科目＝必修科目」「II 科目＝標準科目」「その他選択科目＝発展科目」に区分し、履修は基本的に「必修⇒標準⇒発展」に構造化する。一見、カリキュラムが硬直化しそうだが、分割履修、同時履修、減単など、さまざまなパターンが想定されている。

【理科】

主な変更は「科学と人間生活」。この科目は物化生地の 4 分野について、それぞれ 2 つ学習項目が設定されている。現行は 1 つずつ選んで履修するが（4 新単位）、2 つとも学ぶ履修方法を追加する（8 新単位）。

これにより理科の選択必修は、現行の「『科学と人間生活（4 新単位）』＋基礎 1 科目」または「基礎 3 科目」に加え、「『科学と人間生活（8 新単位）』のみ」の 3 パターンとなる。

また、各基礎科目の冒頭には新たな学習項目「科学ガイダンス」を設定。理科と社会のつながりなどを学ぶ。初学の基礎科目である程度まとめて学習することが想定されている。

このほか外国語と地歴・公民は大幅な改訂はないと見られる。各教科の詳細は夏に予定されている「審議まとめ」で明らかになる。[本サイト](#)でも紹介していく予定だ。なお、次ページには今後の改訂スケジュールも掲載しているので参照されたい。

(2026.07 石井)

